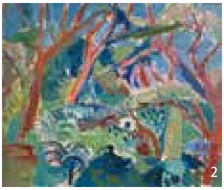
萬鉄五郎記念美術館
木の間通信 KONOMA
東和エリア
美術ニュース
no.19
2015.
8月号

「棟方志功 萬鉄五郎に首ったけ」展

2015年 7月4日（土）～ 8月30日（日）　●会場：萬鉄五郎記念美術館

1



2

3

青森県生まれの日本の近代版画を代表する版画家、棟方志功が、萬鉄五郎を敬愛し萬の自画像を生涯愛蔵するほど惚れ込んでいたことは、専門家の間でもあまり語られてきませんでした。このたび棟方と萬、両者の作品を対比しながら版画家・棟方志功に萬がもたらした意義を跡づけたいと思います。

1.棟方志功《道標の柵（御鷹揚の妃々達）》彩色木版・紙／昭和38年／棟方志功記念館蔵
2.棟方志功《越後亀田長谷川邸の庭》油彩・画布／昭和6年／青森県立美術館蔵
3.萬鉄五郎《郊外の朝》油彩・画布／大正7年／盛岡市蔵

●休館日　月曜日（祝日の場合その翌日）
●開館時間　8:30 ～ 17:00（入館は16:30まで）
●入館料　一般700円、高校・学生400円、小・中学生300円
＊20名以上の団体50円引

ワークショップ「棟方志功流 お茶の楽しみ」

●日時　8月23日（日）　①10:00 ～、②14:00 ～（2回）
●参加料　2,000円
●講師　石井頼子氏（棟方志功研究・学芸員、棟方志功令孫）
●定員　各回20名（先着順。8月1日～7日の期間で、お一人ずつお申し込みください。電話0198-42-4402）

Logo design／杉本吉武

時空を超えてつむぐ
―多和英子vs放菴・達吉・鉄五郎

2015年 9月5日（土）～10月25日（日）　●会場：萬鉄五郎記念美術館

●休館日　月曜日（9/21、10/12は開館）、9/24（木）、10/13（火）
●開館時間　8:30 ～ 17:00（入館は16:30まで）
●入館料　一般500円、高校・学生300円、小・中学生200円
＊20名以上の団体50円引

多和英子《Welding698 time》2003年／鉄

鉄という硬質な素材を、多和英子は、逆にやわらかく、軽く、時にしなやかに感じられるように、ダイナミックに、そして繊細に造形します。

本展では、そうした多和英子の鉄による立体造形を、日本の近代美術に名をのこした三人の芸術家・小杉放菴、藤井達吉、萬鉄五郎の作品とあわせて紹介します。

近代と現代の美術、およそ90年の時と場所を超えた創作の響きあいを感じてください。

萬鉄五郎記念美術館 館長講座 ―絵画の見方とその歴史―Ⅳ

●日時　第3回 8月22日（土）13:30～15:00　点描の画家・新印象派《スーラ、シニャック》
●場所　花巻市役所東和総合支所1階 第1会議室　●受講無料
●講師　萬鉄五郎記念美術館館長 中村光紀　●申込先　萬鉄五郎記念美術館 ☎0198-42-4402

土澤アートクラフトフェア

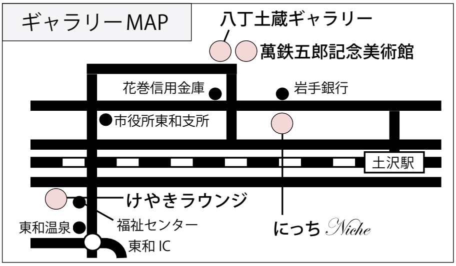
2015年10月11日（日）～12日（月・祝）
10:00～16:00（12日は15:30まで）　●会場：萬鉄五郎記念美術館＆土澤商店街

喫茶「八丁土蔵」

萬鉄五郎の本家「八丁」にあった土蔵を移築復元した、ギャラリーと喫茶スペースです。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ一度ご賞味ください。　営業時間：10:00 ～ 16:00（lo.15:30）

美術の街「土沢」ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて、「美術の街」土沢めぐりをしてみてはいかがでしょうか。



【8・9月の土沢イベント情報】 8月6日(木)、7日(金) 土沢七夕まつり　9月12日(土)、13日(日) 土沢まつり

萬鉄五郎記念美術館

八丁土蔵ギャラリー

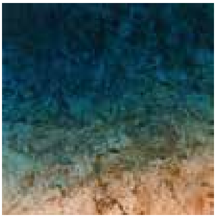
花巻市東和町土沢 5-135 萬鉄五郎記念美術館内
9:00-16:30　月曜休（祝日の場合は翌日）　入場無料

iwate コンテンポラリーアート

宇田義久 展

7/4(土)～8/30(日)

盛岡在住の画家。立体と絵画の境界に存在する作品。



時空を越えてつむぐ
—多和英子vs放菴・達吉・鉄五郎

9/5(土)～10/25(日)

現代彫刻家多和英子の作品と、日本近代美術家・小杉放菴、藤井達吉、萬鉄五郎の作品をあわせて紹介。

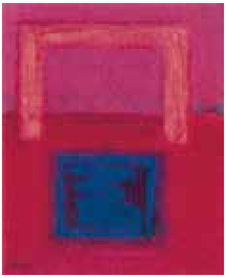
Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205
10:30～19:00（最終日は16:00まで）入場無料

北嶋京子 作品展

8/1(土)～8/31(月)

自由自在な筆触と色彩の競演。東京在住のベテラン画家。



東北新象小品展

9/1(火)～9/30(水)

新象の仲間たちがけやきに登場。実力者揃いです。

世界の雑貨とギャラリー

にっち Niche

花巻市東和町土沢8-115 こっぽら土澤1階
10:00～17:00　火曜定休　入場無料

及川雄太作品展「鬼神」

7/29(水)～8/10(月)

小学五年生の小さなアーチストが描く、鬼神の数々。

前田桂子作品展「布カエル図鑑」

9/16(水)～9/28(月)

布カエルの携帯入れで多くのファンを持つ作家は、仙台在住の手芸家。会場にカラフルなカエルたちが並びます。

丁字路

館長コラム

「赤い太陽」「緑色の太陽」

萬鉄五郎は、東京美術学校卒業の頃から、人物や風景などに赤系の色を多く用いて、独特の絵画表現をめざしている。当館所蔵の『太陽と道』（1912年頃）は、赤をはらんだ太陽の光線がギラギラと木々や道路に放射され、風景全体がローズ系の赤で染められている。大地を突き刺す萬の「赤い太陽」は見るものの心を射抜く力強い快作で、ゴッホの影響がある。

ゴッホは太陽を多く描き、しかもその大きさが目立つ、西洋でゴッホ以前に太陽が堂々と画面に描かれることは無かった。ゴッホは、働く農民を描いたミレーに共感し、崇拝していた。「種をまく人を描くのは、昔から僕の念願だ」と記して、尊敬するミレーにならって、ゴッホ自身の種まく人を油彩、素描合わせ40点描いている。

アルル時代に描いた『種まく人』（1888年）は、種まく人と画面を斜めに横切る大きい木が巨大な太陽を背景に組み合わされている。この大きい木は、広重『名所江戸百景・亀戸梅屋舗』の手前に大きく描かれた臥龍梅の木からである。そして大きな太陽は、日本の掛け軸などに多く見られる、描かれた鳥などに比べて極端に大きい太陽や月などの絵から影響を受けている。このような構図は日本人には普通のことでも、西洋人の目からは驚くべき表現であったと思う。

萬鉄五郎は、美校卒業制作『裸体美人』を発表した1912年の9月、岸田劉生らの「フュウザン会」に高村光太郎、木村荘八らと参加した。アカデミズムとして硬直化した文展に対抗して、若い画家たちが開いた展覧会である。その頃フランスから帰朝したばかりの高村光太郎は、雑誌『スバル』に評論「緑色の太陽」を掲載した。「人が緑色の太陽をえがいても私は非なりとは言わない」と記し、芸術の絶対自由を求め、自我の解放、個性の主張にふさわしい芸術を求めた。日本美術界への痛烈な批判で、若い芸術家へ影響を与えた。

その後、裸婦を緑色で描いた画家が梅原龍三郎である。1937年『竹窓裸婦』を発表、窓の外の竹林の緑が白い肌に反映された量感充分のヌードで、真正面から足を組んで座る裸婦は全体が緑で覆われている。世間をあっと驚かせた作品は、フォーヴとは別の異色の裸婦で力強い生命感に満て、梅原の代表作の一つとなった。近代絵画は、描くことの自由を得た。

萬鉄五郎記念美術館長　中村光紀

萬鉄五郎
《太陽と道》
1912年頃　油彩・板
萬鉄五郎記念美術館

フィンセント・ファン・ゴッホ
《種まく人》
1888年　油彩・画布
ゴッホ美術館

萬鉄五郎記念美術館　岩手県花巻市東和町土沢 5-135　Tel.0198-42-4402　8:30am. ～ 5:00pm.
yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp　http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/503/p004177.html　月曜休館（祝日の場合その翌日）

発行人／東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明